

研究課題名	本邦における成人脊柱変形手術の実態調査
研究責任者	大和 雄
研究機関名	浜松医科大学整形外科
研究目的と意義	<p>現在我が国は急速に進行する高齢化社会を迎えています。高齢者人口が急激に増加しているとともに、医療の発達や生活環境の改善により健康寿命が延長しています。そのため以前は年のせいとされ治療されていなかった高齢者の脊柱（せぼね）の変形でも矯正を希望する例が増えています。また脊椎インストゥルメンテーションに代表される医療技術の進歩があり、成人の脊柱の変形を矯正することが可能となってきた。成人脊柱変形の治療はいまだ歴史が浅く確立された治療法はなく、各医療施設が独自の方法で治療をおこなっています。そのため、手術の頻度、患者背景、手術方法、手術成績、合併症などの手術の実態は不明です。また欧米と本邦では脊柱のかたちの人種間の差、骨粗鬆症の頻度、社会生活環境や生活様式など異なる点が多くあります。そのため本邦独自の調査が必要です。そこで日本側彎症学会では、全国の主だった施設で成人脊柱変形手術の実態調査をおこなっています。</p>
研究期間	西暦 2014 年 9 月（倫理委員会承認後） ～ 2015 年 3 月
研究方法	<p>●対象となる患者さん：</p> <p>2011 年 1 月 ～ 2013 年 12 月に下記の施設で成人脊柱変形の手術をおこなった患者様が対象です。</p> <p>日本側彎症学会幹事施設（23 施設）  （聖隷佐倉市民病院，北海道大学，東部地域病院，弘前記念病院，国立病院機構神戸医療センター，名城病院，金沢医科大学，榛名荘病院群馬脊椎脊髄病センター，北里大学，信州大学，岡山大学，東京大学，獨協医科大学，獨協医科大学越谷病院，久留米大学，新潟脊椎センター，岐阜県立総合医療センター，国立病院機構村山医療センター，慶応大学，東海大学，岩手医科大学，札幌整形外科，岐阜市民病院）</p> <p>●研究に使用する試料：</p> <p>(1)年齢性別などの患者背景，手術方法，術中術後合併症などの診療情</p>

	<p>報</p> <p>(2)術前後の X 線像</p> <p>●研究方法</p> <p>以下の評価項目を診療録から調査する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 患者背景 (年齢, 性別, 人種, 既往歴, 飲酒・喫煙歴, アレルギー)</li> <li>・ 手術方法 (手術術式, 骨切り高位, 固定範囲, アンカー種類, スクリュー・ロッド径, 出血量, 手術時間), 術中脊髄モニタリング所見</li> <li>・ 術中術後合併症 (死亡, 視力障害, 神経障害, 感染, 大量出血, 術後血腫, 肺炎, 心不全, 深部静脈血栓症, 肺塞栓症, 消化管穿孔, instrumentation failure)</li> <li>・ 自己評価式質問票 (Oswestry Disability Index 日本語版, Scoliosis Research Society 22 日本語版, 日本整形外科学会腰痛疾患質問票)</li> <li>・ 神経学的所見</li> </ul> <p>また, 以下の画像を匿名化しデータ化する。X 線パラメータの計測評価は浜松医科大学整形外科教室で行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全脊柱立位単純 X 線像 (術前, 退院時, 術後 1 年時)</li> </ul>
<p>問い合わせ先</p>	<p>〒431-3125 浜松市東区半田山一丁目 20 番 1 号</p> <p>浜松医科大学医学部附属病院</p> <p>診療科：整形外科</p> <p>担当者：大和 雄</p> <p>TEL： 053-435-2299                      FAX： 053-435-2296</p> <p>E-mail：yamato@hama-med.ac.jp</p>

医学系研究に関する情報公開文書